

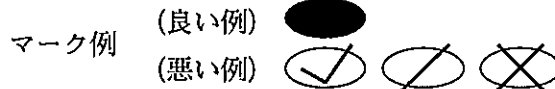
令和5年度（令和4年度実施）
高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）

中学校 高等学校 特別支援学校 中学部 高等部
保健体育

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
○ 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○	○	○	○	○
●	○	○	○	○
○	●	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○

- ※ 正しくマーク（正しい選択問題への解答及びマーク）していないと、正確に採点されませんので、注意してください。

記入例

（受審番号12345の場合）

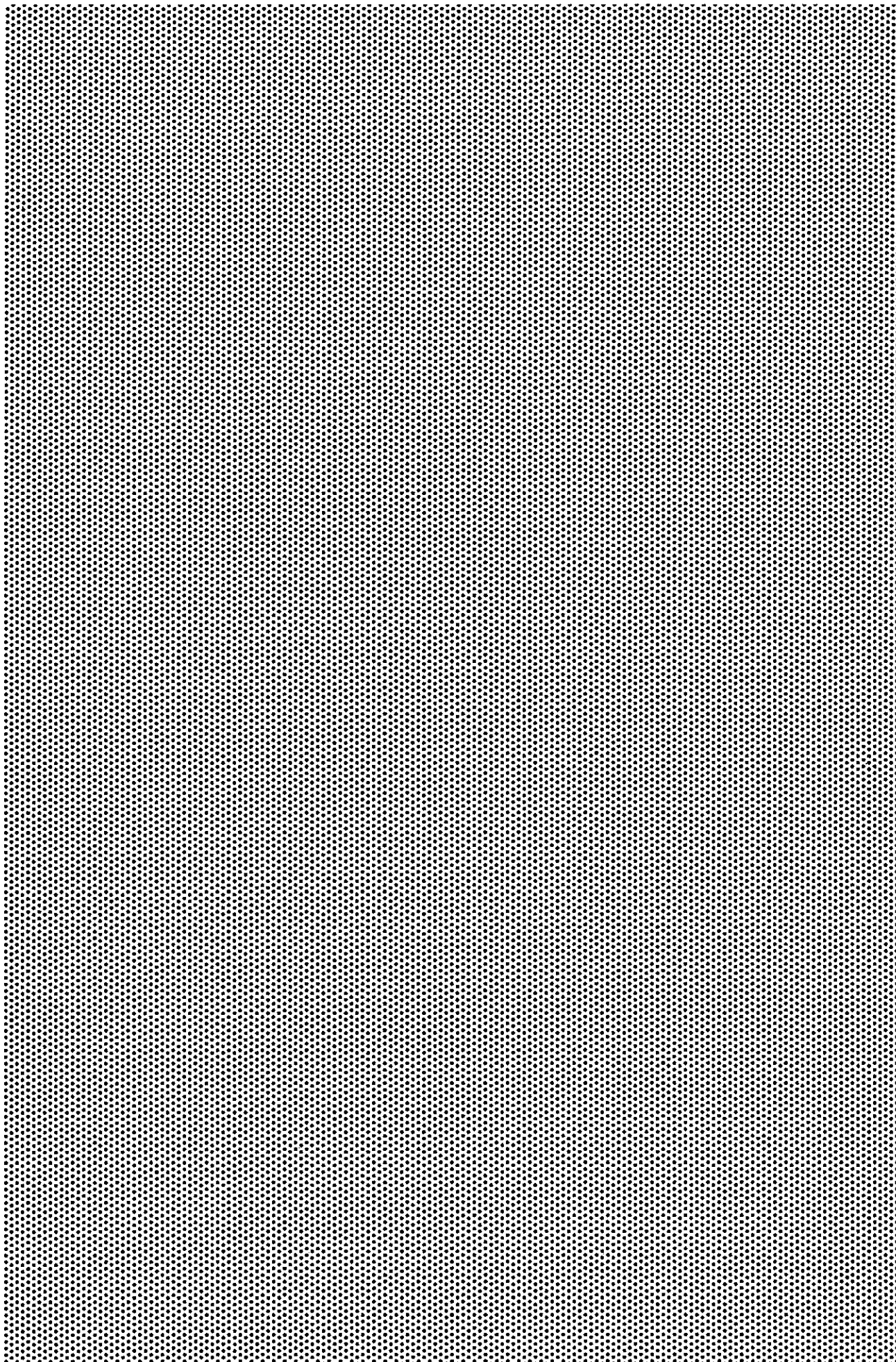
- 4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。
- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対してbと解答する場合は、下の（例）のようにアの解答欄の b をマークしてください。

（例）

ア	a	●	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 6 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



【共通問題】

第1問 運動領域及び競技の用語に関して、次の1～7の問いに答えなさい。

- 1 次の表は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編「第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各教科の目標及び内容「体育」 3 内容 A 体づくり運動 内容の取扱い」の中に、「体の動きを高める運動」、「実生活に生かす運動の計画」の行い方の例として示されている一部である。表中の（①）～（④）に該当する語句の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ア

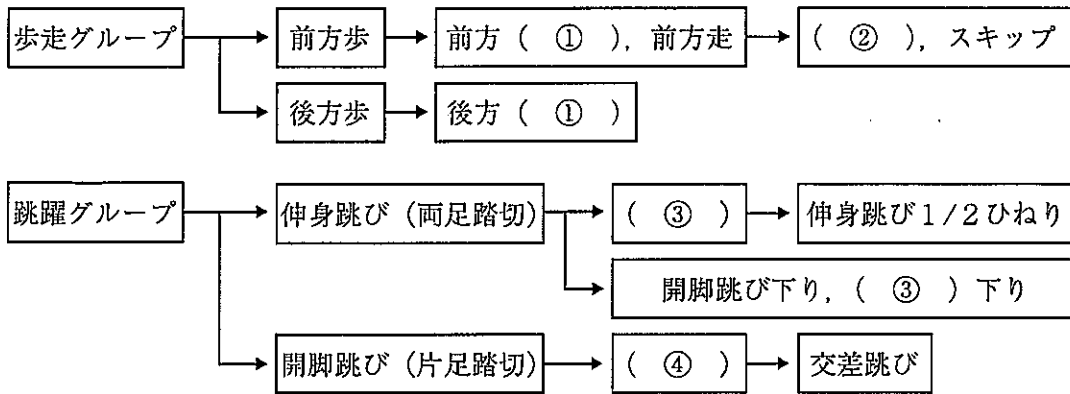
「実生活に生かす運動の計画」の行い方の例

中学校3年生 高校入学年次
実生活に生かす運動の計画の行い方
<p>○（①）ための体力の向上を図る運動の計画と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動不足の解消や体調維持のために、食事や睡眠などの（②）の改善も含め、休憩時間や家庭などで（③）に行うことができるよう効率のよい組合せやバランスのよい組合せで運動の計画を立てて取り組むこと <p>○（④）ための体力の向上を図る運動の計画と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調和のとれた体力の向上を図ったり、選択した運動やスポーツの場面で必要とされる体の動きを高めたりするために、効率のよい組合せやバランスのよい組合せで運動の計画を立てて取り組むこと

- | | | | | |
|---|-----------|--------|-------|-----------|
| a | ① 運動を行う | ② 生活習慣 | ③ 計画的 | ④ 健康に生活する |
| b | ① 運動を行う | ② 栄養吸収 | ③ 計画的 | ④ 健康に生活する |
| c | ① 健康に生活する | ② 栄養吸収 | ③ 計画的 | ④ 運動を行う |
| d | ① 運動を行う | ② 生活習慣 | ③ 日常的 | ④ 健康に生活する |
| e | ① 健康に生活する | ② 生活習慣 | ③ 日常的 | ④ 運動を行う |

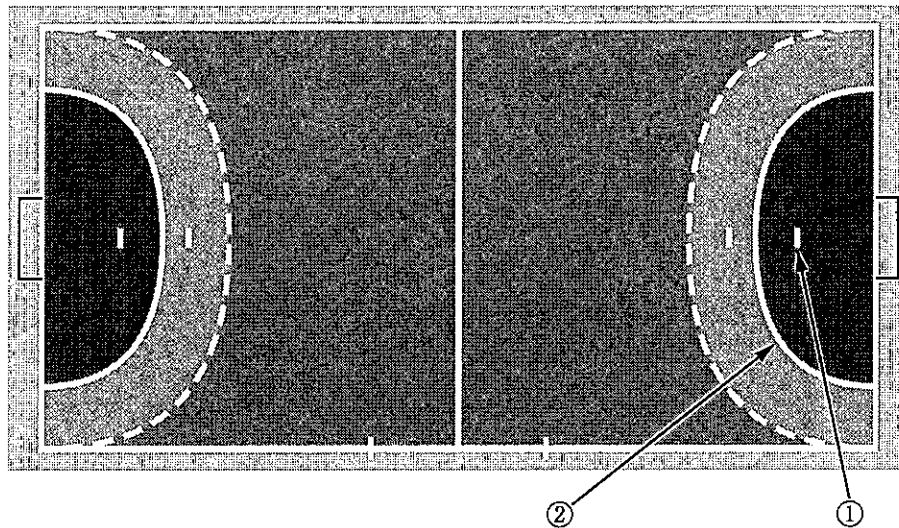
2 次の図は、平均台運動の技の系統を示したものである。(①) ~ (④) に該当する名称の正しい組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。 イ

体操系



- | | | | |
|---|-----------|----------|-----------|
| a | ① ツーステップ | ② ギャロップ | ③ 前後開脚跳び |
| | ④ かかえ込み跳び | | |
| b | ① ギャロップ | ② ツーステップ | ③ 前後開脚跳び |
| | ④ かかえ込み跳び | | |
| c | ① ツーステップ | ② ギャロップ | ③ かかえ込み跳び |
| | ④ 前後開脚跳び | | |
| d | ① 片足ターン | ② ツーステップ | ③ 前後開脚跳び |
| | ④ かかえ込み跳び | | |
| e | ① ギャロップ | ② ツーステップ | ③ かかえ込み跳び |
| | ④ 前後開脚跳び | | |

- 3 次の図は、ハンドボールコートを示したものである。①・②に該当する正しい名称の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。



- | | | |
|---|--------------|--------------|
| a | ① 7mライン | ② フリースローライン |
| b | ① ゴールキーパーライン | ② アウターゴールライン |
| c | ① ペナルティマーク | ② ゴールエリアライン |
| d | ① ゴールキーパーライン | ② ゴールエリアライン |
| e | ① ペナルティマーク | ② アウターゴールライン |

- 4 卓球において、「相手が台から離れているときなどに、打球の勢いを止めて、ネットぎわに返球する打ち方」を何というか。次のa～eから一つ選びなさい。

- a ショート
- b ストップ
- c ツツキ
- d トップ打ち
- e プッシュ

- 5 水泳において、「進むときに水の抵抗が最も少なくなるよう、体全体を水平かつ一直線に伸ばした姿勢」を何というか。次のa～eから一つ選びなさい。

- a ローリング
- b アウト（イン）ワードスカル
- c リカバリー
- d ハイエルポー
- e ストリームライン

6 剣道における①「しかけ技」と②「応じ技」の名称として正しい組み合わせを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a ① 払い面 ② 引き胴
- b ① 小手抜き面 ② 払い面
- c ① 小手すり上げ面 ② 引き面
- d ① 引き面 ② 面抜き胴
- e ① 出ばな小手 ② 面一胴

7 ダンスにおける動きの効果として、「同じ動きを輪唱のようにずらすこと」を何というか。次のa～eから一つ選びなさい。

- a カノン
- b ユニゾン
- c アシンメトリー
- d リフト
- e シンメトリー

第2問 競技に関するルールについて、次の1～5の問いに答えなさい。(なお、各競技規則・ルールは令和4年3月31日現在のものとする。)

1 次の文は、陸上競技(トラック競技)のスタートのルールについて述べたものである。正しいものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 4×100mリレーにおいて、「On your marks (位置について)」の言葉を用いた後、全ての競技者が静止したと確認した時点で、信号器を発射する。
- b 800m競走において、スターティング・ブロックの使用は必須である。
- c スタートラインは、幅40mmの白いラインで示す。
- d 1500m競走においてスタートラインが曲線の場合、走路と同じ全天候舗装であることを条件として、外側のレーンから外にはみ出してスタートラインを引くことができる。
- e 100mハードル競走において、「On your marks (位置について)」の言葉を用いた後、信号器を発射する。

2 次の文は、水泳競技のルールについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a リレー競技においては、前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者の足がスタート台を離れた場合は、そのチームは失格となる。
- b バタフライにおいて、両脚・両足は同じ高さになる必要はないが、交互に動かしてはならない。
- c 競技者は折り返しの際、各泳法の規則に従い、プールの壁に体の一部を接触させなければならない。折り返しは壁で行わなければならない。
- d 競技中にレーンロープを引っ張ってはならない。
- e 自由形競技またはメドレー競技の自由形において、プールの底に立つことは失格となる。

3 次の文は、バスケットボールにおけるファウルについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a ボールを持っていなくても、無理に進行して相手チームのプレーヤーのトルソー（胴体）に突き当たったり、押しのけたりする不当な体の触れ合いはチャージングとなる。
- b 相手がファウルしたように見せかけて、わざと倒れた場合、パーソナルファウルとなる。
- c 特に悪質でスポーツマンシップに反する行為に対するファウルはディスクォリファイングファウルとなる。
- d わざとゲームの進行を遅らせた場合、テクニカルファウルとなる。
- e 相手がボールを持っているかいないかにかかわらず、相手チームのプレーヤーの進行を妨げる不当な体の触れ合いはブロックングとなる。

4 次の文は、バレーボール（6人制5セットマッチの場合）の試合進行上のルールについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 新たにサービス権を得たとき、各プレーヤーは時計回りに一つずつポジションを移動する。
- b タイムアウトは、1回につき30秒で両チームとも1セットに2回まで取ることができる。
- c 各セットの終了ごとにコートを交代する。第5セット目はいずれかのチームが8点を得たときに行う。
- d 競技者の交代は、1チームにつき同一セット中に5回を限度とする。
- e 第5セット目は15点制で行う。

5 次の文は、柔道の基本的なルールについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 2回目の「指導」が与えられた選手の3回目の「指導」は「反則負け」となる。
- b 場内で「抑え込み」が宣告された場合は、両者が場外に出ても「抑え込み」は継続される。
- c 固め技において、「抑え込み」の宣告から10秒間、相手を抑え込んだとき「技あり」となる。
- d 試合時間が終了し、スコアが同じ場合は「指導」の有無にかかわらず、ゴールデンスコア方式の延長戦で勝敗を決める。
- e 相手が払腰等を掛けたとき、相手の支えている脚を内側から刈った場合は「指導」となる。

第3問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 運動の技能のポイントについて、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、跳び箱運動における「首はね跳び」の技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 膝が伸びきるようにして踏み切る。
- b 両腕の支えによって後頭部を跳び箱につけ、首支持になる。
- c 跳び箱上の支持面より腰が前に出ない位置ではね動作を行う。
- d 前上方に向かってはね動作と腕の伸ばしを行う。
- e 第二空中局面で体を反った伸身体勢になる。

(2) 次の文は、陸上競技のリレーの技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 次走者が最高スピードに達したときにバトンを受けられるようにマークの位置を決める。
- b 前走者はバトンを通すまでスピードを落とさない。
- c バトンの受け渡しでは、次走者の「ハイ」の合図で、腕を伸ばす。
- d バトンの受け渡し（上から渡す方法）では、次走者はバトンを受け取る側の手を広げ高い位置で固定する。
- e バトンの受け渡し（上から渡す方法）では、前走者と次走者がしっかりと腕を伸ばし、利得距離を大きくする。

(3) 次の文は、サッカーの「インフロントキック」の技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a ボールを蹴る方向に対し斜め内側から入る。
- b ボールをよく見る。
- c 膝から下を振り出す。
- d 足の甲の中心で蹴る。
- e ボールをすくい上げるようにして蹴る。

(4) 次の文は、ソフトテニス（右利き）の技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 「フラットサービス」では、ボールの右上を切り落とすように左回転を与える。
- b 「ボレー」では、ラケットを前に押し出し、フラット面にとらえる。
- c 「フォアハンドのアンダーストローク」では、ボールのバウンドに合わせてテークバックを完了させ、下から斜め上に振り抜く。
- d 「バックハンドのアンダーストローク」では、肩越しにボールを見て肩と腰を回し、下から斜め上に振り抜く。
- e 「スマッシュ」では、高い打点でインパクトし、ラケットを左脇の下に振り抜く。

2 体育理論について、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 国際パラリンピック委員会が重視しているパラリンピックの「四つの価値」について、正しい組み合わせを、次のa～eから一つ選びなさい。

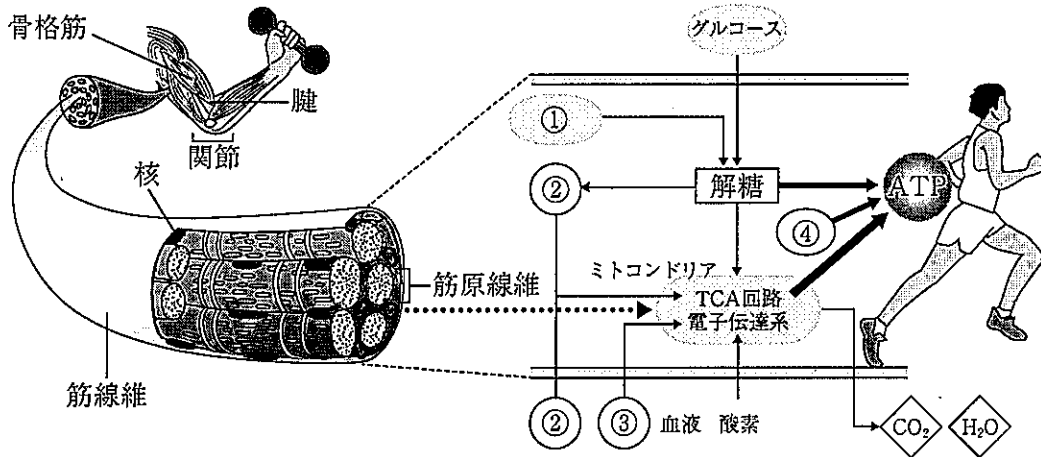
- | | | | | |
|---|------|--------|-------------|---------|
| a | ① 平和 | ② 卓越 | ③ 友情 | ④ 公平／平等 |
| b | ① 勇気 | ② 強い意志 | ③ 友情 | ④ 敬意／尊重 |
| c | ① 勇気 | ② 強い意志 | ③ インスピレーション | ④ 公平／平等 |
| d | ① 平和 | ② 卓越 | ③ インスピレーション | ④ 敬意／尊重 |
| e | ① 平和 | ② 強い意志 | ③ 友情 | ④ 敬意／尊重 |

(2) 次の文は、スポーツに関わる歴史上の人物について述べたものである。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 カ

- ① バスケットボールを考案した人物
- ② アジアで最初のIOC委員を務めた人物
- ③ ドイツ体操を始めた人物
- ④ 近代オリンピックの創始者である人物

- | | | | |
|---|-------------------------|---------|-------------|
| a | ① ウイングフィールド
④ クーベルタン | ② 織田幹雄 | ③ ヤーン |
| b | ① ネイスミス
④ ヤーン | ② 嘉納治五郎 | ③ クーベルタン |
| c | ① ヤーン
④ ウイングフィールド | ② 織田幹雄 | ③ ネイスミス |
| d | ① ネイスミス
④ クーベルタン | ② 嘉納治五郎 | ③ ヤーン |
| e | ① クーベルタン
④ ネイスミス | ② 織田幹雄 | ③ ウイングフィールド |

(3) 次の図は、人の骨格筋のエネルギー源となるATP（アデノシン3リン酸）生成の仕組みについて示したものである。図中の①～④に該当する語句の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 キ



- | | | | |
|---|------------|----------|----------|
| a | ① 乳酸 | ② グリコーゲン | ③ 脂肪 |
| | ④ クレアチンリン酸 | | |
| b | ① グリコーゲン | ② 乳酸 | ③ 脂肪 |
| | ④ クレアチンリン酸 | | |
| c | ① クレアチンリン酸 | ② 乳酸 | ③ グリコーゲン |
| | ④ 脂肪 | | |
| d | ① クレアチンリン酸 | ② 脂肪 | ③ 乳酸 |
| | ④ グリコーゲン | | |
| e | ① グリコーゲン | ② 脂肪 | ③ 乳酸 |
| | ④ クレアチンリン酸 | | |

(4) 次の文は、スポーツの技能の上達過程について述べたものである。(①) ～ (③) に該当する語句の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ク

- (①) の段階：意識してもなかなかうまくいかない (たまにうまくいく)
 (②) の段階：意識しながらできる
 (③) の段階：意識しなくてもひとりですることができる

- | | | | |
|---|----------|----------|----------|
| a | ① 意図的な調整 | ② 試行錯誤 | ③ 自動化 |
| b | ① 試行錯誤 | ② 自動化 | ③ 意図的な調整 |
| c | ① 自動化 | ② 意図的な調整 | ③ 試行錯誤 |
| d | ① 意図的な調整 | ② 自動化 | ③ 試行錯誤 |
| e | ① 試行錯誤 | ② 意図的な調整 | ③ 自動化 |

第4問 保健について、次の1～5の問いに答えなさい。

1 次の文は、汚染物質と健康への影響について述べたものである。正しいものの組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

- ① 炭化水素は血液中のヘモグロビンと結びついて酸素の運搬能力を弱め、細胞の酸素不足を起こす。
- ② 二酸化硫黄は水に溶けやすく、上部気道・気管支の粘液に溶けて硫酸となり、刺激する。慢性気管支炎・気管支ぜんそくなどを起こす。
- ③ 浮遊粒子状物質は微細な粒子のため、細気管支・肺胞に沈着し、長い年月にわたると肺気腫、肺がん、肺線維症などを起こす。
- ④ メチル水銀は有機水銀化合物で脂肪に溶けやすく、中枢神経系に障害をもたらす。イタイイタイ病の原因物質である。
- ⑤ カドミウムは腎臓障害を起こし、たんぱく尿をもたらす。水俣病の原因物質である。

a ①・② b ③・④ c ②・③ d ④・⑤ e ①・⑤

2 次の文は、自転車の通行規則について述べたものである。正しくないものの個数を、下のa～eから一つ選びなさい。

- ① 自転車は、歩道と車道の区別があるところは歩道通行が原則である。
- ② 歩道は歩行者が優先であり、自転車で通行する場合は徐行する。
- ③ 飲酒運転は禁止されており、罰則の対象となる。
- ④ 夜間のライトの無灯火は禁止されているが、罰則の対象ではない。
- ⑤ 自転車を運転する児童の保護者は、児童にヘルメットを着用させるよう努めなければならない。

a 1個 b 2個 c 3個 d 4個 e 5個

- 3 次の表は、日本の主な死因による死亡割合の推移について示したものである。
 (①) ~ (⑤) に該当する語句の正しい組み合わせを、下の a ~ e から一つ選
 びなさい。

(厚生労働省<人口動態統計>2020)

- | | | | | |
|---|---------|---------|---------|---------|
| a | ① 全結核 | ② 悪性新生物 | ③ 不慮の事故 | ④ 老衰 |
| | ⑤ 脳血管疾患 | | | |
| b | ① 心疾患 | ② 胃腸炎 | ③ 老衰 | ④ 脳血管疾患 |
| | ⑤ 不慮の事故 | | | |
| c | ① 全結核 | ② 胃腸炎 | ③ 不慮の事故 | ④ 老衰 |
| | ⑤ 不慮の事故 | | | |
| d | ① 全結核 | ② 胃腸炎 | ③ 老衰 | ④ 脳血管疾患 |
| | ⑤ 不慮の事故 | | | |
| e | ① 心疾患 | ② 悪性新生物 | ③ 老衰 | ④ 胃腸炎 |
| | ⑤ 脳血管疾患 | | | |

4 次の文は、すべての人が健康で安全に暮らすための取り組みについて述べたものである。正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

- a 介護を必要とする状態になった場合には、機能の回復や社会復帰をめざし、なるべく早い時期からリハビリテーションを活用し、可能なかぎりの自立と社会参加によって生活の質を維持していくことが重要である。
- b 高齢者が転倒し骨折した場合、病院で骨折の治療を受けるだけでなく、通所リハビリや、再発防止をめざした転倒予防教室など、保健・医療・福祉の連携が進められている。
- c すべての人が、年齢や障がいの有無にかかわらず、平等に通常の日常生活や社会活動を営むことを可能にするために社会を改善していこうという理念を、ワーク・ライフ・バランスという。
- d 高齢者や障がいがある人の日常生活の妨げとなるバリア（障壁）をなくしていこうとする考え方をバリアフリーという。
- e 施設や製品等について新しいバリアが生じないよう誰にとっても利用しやすくデザインするという考え方をユニバーサルデザインという。

5 次の文は、感染症の予防について述べたものである。正しくないものの組み合わせを、次のa～eから一つ選びなさい。

- ① 感染症を予防するためには、感染源、感染経路、体の抵抗力のうち、いずれか一つを選び、対策を立てることが有効である。
- ② 感染源についての対策は、患者の早期発見・早期治療、消毒や滅菌などである。
- ③ 感染経路についての対策は、手洗い、うがい、換気、マスク、人混みを避けるなどである。
- ④ 体の抵抗力についての対策は、食事、運動、休養・睡眠、予防接種などである。
- ⑤ 予防接種は、免疫の仕組みを応用したものであり、病原体と闘う抗原をつくっておき、実際の病原体の侵入に備えておく方法である。

a ①・② b ③・④ c ②・③ d ④・⑤ e ①・⑤

- 2 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔体育分野 第1学年及び第2学年〕 2 内容 B 器械運動」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) (略)

ア マット運動では、回転系や 系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。

イ 鉄棒運動では、支持系や 系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。

ウ (略)

エ (略)

- a 巧技 b 支持 c 倒立 d ほん転 e 跳躍

- a 前方 b 振動 c 懸垂 d 回転 e 後方

- 3 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔内容の取扱い〕 (2) カ」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

「F 武道」については、柔道、剣道、相撲、(略) などを通して、我が国固有の により一層触れることができるようにすること。(略) また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、 指導を行うなど安全を十分に確保すること。

- a 歴史と文化 b 伝統と格式 c 歴史と伝統 d 歴史と格式
e 伝統と文化

- a 系統的な b 習熟度別 c 段階的な d 全体 e 個別

- 4 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔保健分野〕 2 内容 (2)」である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

(2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

(ア) (略)

(イ) (略)

(ウ) 知的機能、情意機能、社会性などの 機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、 がなされること。

(エ) (略)

- a 精神 b 社会的 c 心的 d 心身 e 対処

- a コミュニティ形成 b 第二次的性徴 c アイデンティティ形成
d 第一次的性徴 e 自己形成

- 5 次の文は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)」および「同 (4)」である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 体力や技能の程度、性別や障害の有無等に関わらず、運動の多様な楽しみ方を することができるよう留意すること。

(2) (略)

(3) (略)

(4) 体育分野におけるスポーツとの多様な関わり方や保健分野の指導については、 を伴う学習の工夫を行うよう留意すること。

- a 共感 b 共有 c 実現 d 展開 e 実践

- a 協働的な活動 b 具体的な事例 c 模擬的な体験 d 具体的な体験
e 関わり合い

【選択問題 高等学校】

第5問 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）「第2章 第6節 保健体育」について、次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「第1款 目標」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下のa～eから一つずつ選びなさい。

体育や保健の ，課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

- a 表現力を活用し b 知識・理解を活用し c 思考力を働かせ
d 見方・考え方を働かせ e 判断力を働かせ

- a 社会生活における健康・安全 b 社会生活における心身の健康
c 日常生活における心身の健康 d 個人生活における心身の健康
e 個人生活における健康・安全

2 次の文は、「第2款 各科目 第1 体育 2 内容 B 器械運動」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) (略)

ア (略)

イ (略)

ウ 平均台運動では、体操系や 系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

エ 跳び箱運動では、 系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。

- a ポーズ b バランス c ジャンプ d 回転 e ステップ

- a 支持 b 倒立 c ほん転 d 切り返し e 跳躍

3 次の文は、「第2款 各科目 第1 体育 3 内容の取扱い (2) カ」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

「F 武道」については、柔道、剣道、相撲、空手道、、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の により一層触れることができるようにすること。

- a 槍道 b 杖道 c 古武道 d 日本拳法
e なぎなた

- a 伝統と文化 b 歴史と格式 c 伝統と格式 d 歴史と伝統
e 歴史と文化

- 4 次の文は、「第2款 各科目 第2 保健 2 内容 (2)」である。文中の に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

(2) 安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 安全な社会生活について理解を深めるとともに、 を適切にすること。

(7) 安全な社会づくり

(略)

(イ)

適切な は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。(略)

イ 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

a 救急救命 b 応急手当 c 救急処置 d 心肺蘇生 e 気道確保

a 正しい知識 b 危険な行動 c 事故の要因 d 環境の整備
e 危険の予測

- 5 次の文は、「第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 2 (2)」および「同 (3)」である。文中の に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) (略)

(2) 各科目の指導に当たっては、その特質を踏まえ、必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、 を高めるよう配慮すること。

(3) 体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動の多様な楽しみ方を することができるよう留意すること。

a 指導の効果 b 思考力・判断力 c 思考力・表現力
d 知識・理解 e 学習の効果

a 仲間と共有 b 自身で実践 c 社会で実践 d 仲間と実践
e 仲間と共感

【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～4の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、令和3年6月に文部科学省より示された「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」の「第1編 障害のある子供の教育支援の基本的な考え方」の一部である。文中の ～ に該当する語句を、それぞれ下の a～d から一つ選びなさい。

合理的配慮は、「障害者の権利に関する条約」第2条の定義において提唱された概念であり、その定義に照らし、我が国の学校教育においては、中央教育審議会初等中等教育分科会報告において、合理的配慮とは、「障害のある子どもが、他の子どもと に『教育を受ける権利』を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の を課さないもの」と定義されている。なお、障害者の権利に関する条約において、合理的配慮の否定は、障害を理由とする に含まれるとされていることに留意する必要がある。

- | | | | | |
|--------------------------------|--------|-------|-------|------|
| <input type="text" value="ア"/> | a 平等 | b 均等 | c 対等 | d 同等 |
| <input type="text" value="イ"/> | a 習熟度別 | b 学年別 | c 課題別 | d 個別 |
| <input type="text" value="ウ"/> | a 対応 | b 負担 | c 義務 | d 責任 |
| <input type="text" value="エ"/> | a 差別 | b 区別 | c 分離 | d 偏見 |

- 2 次の表は、令和3年10月に文部科学省より示された「特別支援教育資料（令和2年度）」の「第1部 データ編」の表の一部である。表中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～d から一つ選びなさい。

出典：「学校基本調査」（文部科学省）
※中等教育学校の特別支援学級はなし。

- a 病弱・身体虚弱 b 自閉症・情緒障害 c 知的障害 d 言語障害

- 3 文部科学省の「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について（通知）（平成28年12月9日）」にある平成30年4月1日より施行された「通級による指導」に関する内容に該当するものを、次の a～d から一つ選びなさい。

- a 知的障害者を対象とする通級による指導の制度化
b 情緒障害者を対象とする通級による指導の制度化
c 幼稚園における通級による指導の制度化
d 高等学校における通級による指導の制度化

- 4 平成29年4月告示の「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動」に記載されている自立活動の内容について、次の(1)～(6)の区分に該当する項目を、それぞれ下のa～cから一つ選びなさい。

(1) 健康の保持	<input type="text" value="ク"/>	(2) 心理的な安定	<input type="text" value="ケ"/>
(3) 人間関係の形成	<input type="text" value="コ"/>	(4) 環境の把握	<input type="text" value="サ"/>
(5) 身体の動き	<input type="text" value="シ"/>	(6) コミュニケーション	<input type="text" value="ス"/>

- a 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
 b 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。
 c 日常生活に必要な基本動作に関すること。

- a 状況の理解と変化への対応に関すること。
 b 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
 c 自己の理解と行動の調整に関すること。

- a 情緒の安定に関すること。
 b 他者の意図や感情の理解に関すること。
 c コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

- a 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
 b 身体の移動能力に関すること。
 c 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。

- a 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
 b 保有する感覚の活用に関すること。
 c 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

- a 集団への参加の基礎に関すること。
 b 言語の形成と活用に関すること。
 c 健康状態の維持・改善に関すること。

